

<展覧会情報>

中川佳宣展 Yoshinobu Nakagawa Solo Exhibition
「views of seeds, eyes of farmers」
会期 : 2023年4月8日(土) - 4月30日(日)
開廊 : 土曜日-水曜日 11:00-17:00
休廊 : 木曜日・金曜日
会場 : Galerie Ashiya Schule ギャラリーあしやシュール
〒659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町3-11
Tel/Fax : 0797-20-6629
mail : info@ashiyaschule.com
HP : http://ashiyaschule.com



two ridges(white + red) 2022年
hand-made paper, cotton cloth, oil paint, acrylic paint, beeswax, yarn

Galerie Ashiya Schule はこのたび、中川佳宣の個展「種の視点・農夫の目 views of seeds, eyes of farmers」を開催いたします。

中川佳宣は、植物や自然と人との関係に思いをこめ、1994年の発表より views of seeds, eyes of farmers シリーズを継続してきました。

彫刻や、絵画・オブジェに加え、蜜蝋・木・顔料といったさまざまな素材と向き合いながら思索を深め、制作を続けています。自身の内面から放射する感性によって、自然物の表面(surface)にくまなく接近し、植物の生命の根源と、その命を育む畑・土と農夫の概念を詩的に造形化しています。

関西では8年ぶり、Galerie Ashiya Schule では初の個展となる本展に、どうぞご期待ください。

Artist's statement 中川佳宣

関西で8年ぶりに個展を行う。

今回の個展のタイトルは29年ぶりに (views of seeds, eyes of farmers) 「種の視点、農夫の目」とし、平面とレリーフ状の立体物で会場を構成しようと考えている。

「種の視点」とは、非力ではあるがチャンスがあれば発芽しようと準備を怠らない種子のことである。進化の過程で綿毛を付けたたり、あるいは羽を持って風に乗って遠くに飛んで行けたり、人の衣服や動物の毛に付着して移動したり、鳥などに食べられたりすることで子孫を繋いで来た。また、そのしたたかな戦略家をコントロールして来た技が「農夫の目」である。農夫の目は、常に変化する季節や天候を読むセンサーでもあり、人間の都合に合わせて、種の交配を繰り返して、良い品種を作り続けてきた。

agriculture という言葉を頭の片隅に置いて制作するようになったのは大学の2回生の頃のように思う。80年代の終わり、イメージの復権、新表現主義の時代の中で、自分を成立させているものは何か、自分の表現の核になるものは何かと迷っていた時に、ジャクソン・ポロックのドキュメンタリービデオを観たことで、次元の違う2つの世界を結びつけることを思いついた。

農業を生業としていた私の父の家系は大阪の南東部の河内平野で暮らして来ており(私の父は末っ子だったので大学に行かせてもらい教師の道を選んだが) そんな伯父の仕事ぶりが大好きで付いて回る幼年期であった。

伯父の家は私の自宅の近くで農業を営んでいた。伯父は桜の花が咲き終わると畑を耕作し田植えの準備を始めていた。水田の脇に苗代と呼ばれている小さな水田を作り、種籾を蒔いて行く。その姿はドキュメンタリーで観たポロックの、ドリッピングと呼ばれる技法により、寝かせた状態のキャンバスに絵の具を垂らし込んで行く姿と重なった。

苗代の周りを歩きながら種籾を蒔く伯父は、ポロックという画家の存在をおそらくは知らない。ポロックもまた自分の行為とよく似た行為を、日本の農夫がしていたことを知らなかったと思えば、この両者を知る私はそれを結びつけることで「自分を成立させているもの」が何であるかに気づき、表現出来るのではないだろうかと思いついたのである。

agriculture とは、農業を示す agri という言葉に、文化の意味を持つ culture という言葉で出来ている。culture という言葉には「耕作」するという意味も含まれているが、私は素材を耕しながら制作して来ていることは事実である。

私の作品には、平面と立体が混在する。「種を蒔く」行為を意識すると、空間の中で立体物が立ち上がる。それに対して「蒔かれた種」の存在を考えると、畑あるいは苗代の中に「蒔かれたという結果」しかなく、私にとっては平面のあるいは平面的な作品は全て「結果」なのだと思っている。

今回、(two ridges) 「2つの畝」というタイトルの、同じ形態のものが上下で合わさったレリーフの立体物は、畑の畝を耕す行為の中から生まれたものである。鋤を畝に振るって手前に引く時の土が見せる形状で、真ん中に出来た溝に肥料や腐葉土を入れた後、埋め直し、綺麗に整えられて次の種蒔きの時を待つのである。



この労働の鋤の動きが見せる、土の一瞬の形を永遠のものにしたいと生

まれたもので、2008年に一度制作したこともある。

今回、改めてこの労働の見せる軌跡をモチーフにレリーフ状の作品を制作したのは、色やテクスチャーによって上下の関係をより明確なものにしてみたいと思ったからである。

中川佳宣 Yoshinobu Nakagawa 略歴

1964 大阪府生まれ

1987 大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業

主な個展

- 2000 segment ノブギャラリー 岡崎・愛知
- 2000 farmer's pot ヒロチカシゲギャラリー 岡山
- 2000 farmer's pot ノマル・エディション 大阪
- 2001 農夫の壺 タグチファインアート 東京
- 2002 the surface of the water O ギャラリー eyes 大阪
- 2003 on the table ノマル・プロジェクトスペース 大阪
- 2003 卓上の タグチファインアート 東京
- 2006 light pot ノマル・プロジェクトスペース 大阪
- 2006 臺(とう) タグチファインアート 東京
- 2007 光の根 ノマル・コンテンポラリー・アート 大阪
- 2008 畝あるいは稜線 信濃橋画廊 大阪
- 2008 光の根 マサヨシ・スズキ・ギャラリー 岡崎・愛知
- 2008 内包 タグチファインアート 東京
- 2009 卓上の畝 タグチファインアート 東京
- 2011 卓上の種子 タグチファインアート 東京
- 2013 萌芽 タグチファインアート 東京
- 2015 ノート タグチファインアート 東京
- 2015 初期作品 タグチファインアート 東京
- 2015 原器 ギャラリーノマル 大阪
- 2017 表面主義 タグチファインアート 東京
- 2020 光の壺 タグチファインアート 東京

主なグループ展

- 1991 現代美術 '91—素材はいろいろ 徳島県立近代美術館 徳島
1993 90年の日本—13人のアーティストの提言
ローマ市フォルクローレ美術館 イタリア
デュッセルドルフ市立美術館 ドイツ
1993 '93次代を担う作家 京都府文化芸術会館 京都
1994 ART NOW'94 啓示と持続 兵庫県立近代美術館 兵庫
1994 冒険美術 滋賀県立近代美術館 滋賀
1995 芸術祭典・京—小鳥は大空を想像する 元・龍池小学校 京都
1995 ザ・トゥリーII 笹川平和財団アメリカギャラリー ワシントンD.C.
1996 第1回昭和シェル石油現代美術賞展 Bunkamura Gallery 東京
1996 心を癒す植物—アート・ボタニカル・ガーデン 目黒区美術館 東京
1997 触知 —身体における触覚的提示— 京都精華大学
1998 第3回現代美術ビエンナーレ Noumea-Tokyo ニューカレドニア
1998 手で見る造形—美術の中のかたち 兵庫県立近代美術館
2001 エクステンション・マキシグラフィカ 京都市美術館別館
2003 たがやすように 和歌山県立近代美術館
2007 BIWAKO ビエンナーレ 近江八幡 滋賀
2009 日本版画協会展 招待出品 東京都美術館
2010 ジオメトリック・イメージズ 東京オペラシティアートギャラリー
2013 プレイバック・アーティスト・トーク 東京国立近代美術館
2013 物質（モノ）と美術 和歌山県立近代美術館
2018 ニュー・ウェイブ: 現代美術の80年代 国立国際美術館 大阪
2020 芦屋の時間 芦屋市立美術博物館
2020 コレクションの50年 和歌山県立近代美術館

受賞歴

- 1989 第5回吉原治良賞美術コンクール展 コンクール賞
1989 次代を担う作家 優秀賞 京都府文化芸術会館
1990 第18回日本国際美術展 和歌山県立近代美術館賞
1990 第43回芦屋市民展 芦屋市美術博物館買い上げ賞 芦屋市民センター
1991 第11回天理ビエンナーレ 部門賞受賞 大阪市立美術館阿倍野会場
1991 第12回今立現代美術紙展'93 準大賞 いまだて芸術館
1996 第1回昭和シェル石油現代美術賞展 最優秀賞 Bunkamura Gallery

パブリックコレクション

- 大阪芸術大学 大阪
大阪府立現代美術センター 大阪
和歌山県立近代美術館 和歌山
芦屋市美術博物館 芦屋・兵庫
京都府立文化芸術会館 京都
京都市美術館 京都
いまだて芸術館 今立・福井
東京オペラシティアートギャラリー
東京国立近代美術館 東京
昭和シェル石油 東京
富士ゼロックス株式会社 東京
ヤマサ言語文化研究所 岡崎
大分県立美術館

本展に関するお問合せ

Galerie Ashiya Schule ギャラリーあしやシュール 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11
tel+fax 0797-20-6629 mail:galerieashiyaschule@gmail.com